

浮牛の里拠点10周年記念誌

地域とともに歩む

地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里  
デイサービスセンター浮牛の里  
グループホームくちない  
居宅介護支援事業所浮牛の里

浮牛の里拠点10周年記念誌

# 地域とともに歩む

地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里  
デイサービスセンター浮牛の里  
グループホームくちない  
居宅介護支援事業所浮牛の里

**10周年記念誌発行にあたり**



## 地域とともに歩む浮牛の里拠点

浮牛の里拠点

統括所長 鹿 俣 達 也

令和5年11月1日、デイサービスセンター浮牛の里とグループホームくちないは、開所10周年を迎えました。また、隣接する地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里は1年遅れのオープンのため、令和6年8月12日に10周年を迎えます。これもひとえに、利用者様、職員をはじめ、当事業所とともに歩んでくださった口内地区の皆様のおかげであり、心より感謝を申し上げます。

私たち職員は、地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里、デイサービスセンター浮牛の里、グループホームくちない、居宅介護支援事業所浮牛の里の4事業所をまとめる呼び方として、浮牛の里拠点と呼んでいます。今回、地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里にとっては少し早いですが、浮牛の里拠点の節目として、10年の歩みを振り返り、記念誌「地域とともに歩む」を発行しました。

浮牛の里拠点の歴史は、社会福祉法人博愛会の及川優理事長が、口内町久田に土地を購入したときから始まります。それから大分月日が流れた平成24年、ようやくデイサービスセンターとグループホームの建設工事が始まりました。私も、仕事の合間を縫って建設中の現場に、何度も足を運びました。土留めのための擁壁工事、地盤改良工事、大雪の中での基礎工事などが数ヶ月続き、いつになったら柱が建ち屋根が上がるのか待ち遠しかったのを覚えています。

建設工事が進む一方で、私は、デイサービスセンター、グループホーム、居宅介護支援事業所の職員合わせて約20人、特別養護老人ホームの職員約35人をどのようにして集めるかに頭を悩ませていました。特に、特別養護老人ホームの介護職員20人を一度に集めることは困難でした。このため、平成25年、平成26年の2年かけて職員を募集しました。25年4月、26年4月は、新卒者を多く採用して八天の里とエスカルに配置、研修しながら開所の日を待ちました。

デイサービスセンター、グループホームのオープンに先立ち、平成25年10月26日、内覧会を開催しました。多くの地区民が見学に来てくださり、用意した50足のスリッパが足りなくなるほどでした。翌年8月9日、10日の特別養護老人ホーム浮牛の里内覧会にも160人を超える方が見学に来ています。多くの地区民の方が関心を持ってくださっていることを実感しました。

あれから早10年。振り返ると、口内町民運動会や浮牛城まつりへの職員参加、岩谷堂高校からの手作りベンチ寄贈、20m20cmのジャンボ海苔巻き作りなど懐かしい思い出がいっぱい出てきます。火災警報器の故障で北上消防署に通報が行き、消防車や救急車などが浮牛の里に集まってきた苦い思い出もあります。令和3年には、グループホームくちないで新型コロナウイルス感染症のクラスターを発生させてしまい、終息まで半月かかったのは記憶に新しいです。

口内地区の高齢化はこの10年間で大きく進み、15歳未満の若年人口が10%以下、3人に1人が65歳以上の老年人口となり、少子高齢化が進行しています。しかも老年人口は、多くの地区で増加する見込みなのに、口内地区では減少する見込みなそうです（「北上市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（令和2年改訂版）」）。若者も高齢者も口内町から居なくなっているということです。

こうしたなか、浮牛の里拠点が、口内地区民の“最後のよりどころ”として、お役に立てればいいなと思っています。

浮牛の里拠点は、今後も地域の皆さんとともに歩んでいきます。

浮牛の里拠点10年を振り返って



## 浮牛の里整備に当たって

社会福祉法人博愛会

理事長 及川 優

社会福祉法人博愛会は、平成5年5月に設立した法人ですが、設立の源流となった「寝たきり老人を考える会」発足から、令和3年に30周年を迎えました。

これを機会に地域の方々とともに歩み続ける博愛会役職員の心意気と、更なる発展の糧となることを祈念し、博愛会誕生ものがたり「30年を振り返って」を発行いたしました。

平成6年4月に“心温まるケア”をモットーに更木地区の北上川東岸に特別養護老人ホーム「八天の里」を開設しました。これに端を発し、平成10年7月、立花・稲瀬地区に自分の家としての軽費老人ホーム「ケアハウスエスカール」を、平成25年から口内地区に「浮牛の里」等の整備を行いました。国、県、市当局のご指導と関係機関の皆様をはじめ当法人の役職員のご理解とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

私は、岩手の原風景が好きです。北上山地（盆地）の山間（やまあい）に点在する家々を歩いて、時には馬橋に乗って往診する父清との少年期の思い出、父が口内診療所の運営に注いだ情熱や同地域の方々との密接な交流。何よりも私が開業して間もない真冬の往診で遭遇した衝撃的な体験が「寝たきり老人を考える会」発足に繋がり福祉施設の整備構想へと発展したのでした。

しかし、諸事情から更木、立花 稲瀬地区の整備を先行させ、今から25年前になりますが口内地区の整備に当たり地元出身の伊東宗行氏から同家跡地を取得し計画の模索が始まったのです。人口減少が著明な地域での職員確保に困難が予想されたほかに地域での諸事情もあり、10年ほど経過したのですが、地元民の要望は絶えることなく早期の整備を望む声が大きく、この状況をみかねた鹿俣達也エスカール園長が率先して取り組みを促し、彼の思いと相まって実現に漕ぎつけることができました。

開発に先立って実施した地質調査で予想外に土壌改良や盛土に費用がかかることが示され、建設場所の変更を検討したものの適切な場所がなく原案通りとなった経緯があります。

地域の方々が身近に感じ親しみやすい施設整備を目指しデイサービス事業、グループホーム事業、地域密着型特別養護老人ホームと順次に事業を拡大させ今日に至っています。

浮牛の里は地元の皆さんから親しまれ愛されている浮牛城址を見上げる場所に因んで命名しました。あれから10年。私の思い描いた施設整備構想から35年。人口減少と高齢化率の高いこの地区における経営は難しさを伴いますが、初代園長鹿俣達也、2代目園長及川佳寿美を中心に役職員が一丸となって“地域とともに歩む”“心温まるケア”に取り組んでおります。

これからもご指導ご協力を宜しくお願いいたします。開所時からの協力医療機関、岩手県立中部病院、北上済生会病院、医療法人優親会及川脳神経内科クリニック、医療法人川岸会及川歯科医院の役職員に心から感謝申し上げます。



## 浮牛の里10周年に寄せて

有限会社 加藤設計

会 長 加 藤 康 久

「特別養護老人ホーム」いわゆる「特養」との最初のかかわりは、昭和56年（1981年）に市内大堤に開設された「敬愛園」が最初の出会いでした。

当時はまだ「特養」に対する一般住民の理解が浅く、工事途中、住民の「特養」に対する忌避する意見を度々、耳にした記憶があり、法人関係者は苦勞多い開設であったようです。

「特養」の理念を考えれば、家族が常日頃、気軽に「ゲタバキ」で訪問出来ることが理想となりますが、市街地にそれ相応の敷地を確保することは難しい注文であり、どうしても郊外のコストの低い土地に建設せざるを得ない現実があります。運よく、「敬愛園」の場合は離れた郊外地ではなく、地域社会の一角に土地を確保できましたが、地域住民の理解を得るのに苦勞することとなりました。

その後、「わがの里」、「八天の里」を経て、「浮牛の里」に関わることになりました。介護保険法等の制定により、「特養」にも「地域密着型特養」が導入され、規模が小さくて、住み慣れた地域での生活や人間関係を入所後も継続できるのが大きなメリットとなり、以前は多床室が主流でしたが、「浮牛の里」はすべてが個室となり、家族の訪問もより気楽に出来るようになった反面、個室化により、建築コストが上昇して入居者の負担が増える結果となり、地域密着型とは言え、入居のハードルが高くなったのではないのでしょうか。

特養のユニット型施設の増加がスタッフ不足加速の原因と言われ、昨今は個室ではなく多床室を希望する人が増えて、このことが「特養」の稼働率を下げているといわれています。「特養」も社会のニーズに対応できるように、施設もフレキシブルに対応可能とする必要性が求められています。



## 浮牛の里10周年に寄せて

菱和建设（株）

建築事業本部工事部 **掘田 誠二**

このたびは、浮牛の里拠点創立10周年を迎えられた事、心よりお慶び申し上げます。

地域福祉のための施設として事業を開始した御法人は、見事にその任を果たされ、ここに至っております。

弊社につきましては、地域密着型特別養護老人ホームの建設工事で浮牛の里とのかかわりを持たせていただきました。

工事の際には、すでに運営開始されているデイサービスセンターのすぐ隣に建設ということで振動・騒音に注意を払い施工を行いましたが、周囲が静かな環境ということもあり利用者、職員、近隣の皆様には大変迷惑をかけたかと思えます。

しかし、着工から竣工まで10か月間無事故・無災害で工事を終えたことと、無事引渡しできたことは皆様の理解があってこそであり感謝しております。

施設の運営開始後は、自然環境の良さからくる虫や鳥による建物の被害やコンクリート造建物のあるあるでクラックが発生したりと、幾度かメンテナンスで施設を訪れていますが、いつも大変きれいに管理されており工事を行った者としては大切にされていると感じ、嬉しく思います。

入居者様も安心して生活しておられることでしょう。

最後に、社会福祉法人博愛会浮牛の里の発展とご活躍をお祈りいたします。



## ありがたい「浮牛の里職員の弔辞」

口内町自治協議会

会 長 上 原 耕 太 郎

日本人の平均寿命は1955年は四捨五入で男性64歳 女性68歳 2019年は男性81歳（健康寿命は73歳）女性87歳（健康寿命は75歳）と急激に伸びています。医学医術の進歩や欧米等から大注目の和食等の生活環境の整備が長寿の要因と言われます。

自宅で家族で介護していた状況から、介護保険制度により浮牛の里をはじめとする介護施設で親身に入所者（通所者等）を介護していただける社会になりました。家族親族にとって誠にありがたい制度であります。

誰にも寿命はあり葬儀を迎えます。高齢者がお亡くなりになられた葬儀においては、弔辞をいただくことは少なくなっている中で、浮牛の里でお世話になった故人に対してお世話を担当された職員の方々による心を込めてお世話をなされた方だからこそ語れる弔辞を述べていただき、家族・親族そして参列者の心に響き、葬儀後「浮牛の里に入所させていただき本当にありがたかった」という声が多く聞かれます。日々の多忙な業務の中でも丁寧に弔辞を作成なさる方々のご努力に頭が下がります。

口内町の診療所に現在の及川優理事長様の父上様が勤務されて以来、口内町民と及川医院様とは厚い信頼で結ばれ、その後立花地区に新築された及川医院様は口内町民にとって医療の砦です。そんな歴史をもつ及川優理事長様が経営されます浮牛の里拠点が10周年を迎えましたことにお祝いを申し上げますとともに、今後ますます口内町民の介護の砦として、健全な経営が継続されますことを祈念いたします。





## 10周年に寄せて

口内地区交流センター

センター長 太田 孝一

浮牛の里拠点開所10周年記念おめでとうございます。

高齢化社会の中、私も身近かな人達との中で、最後は老後の生活等も話題になる世代になりました。

そんな中、口内の介護施設の拠点として浮牛の里が有ることは、町民の願いでもあり希望でしたが、実現したことで心強い存在を感じております。

浮牛の里の皆さんと地域の交流の機会は、町民運動会・浮牛城まつり・文化祭などが主ですが、参加いただいた皆様の明るい表情や賑やかな会話から、逆に私たちが元気をいただいております。

特に浮牛城まつりでは、手を振ったり声掛けまでして、まつりを一層盛り上げていただいたり、文化祭には皆さんの力作を出展して、存在感をアピールしていただいております。

この様に、口内にある唯一の介護施設として、これからも地域と一体となって益々の発展を願っております。

# 浮牛の里拠点10年のあゆみ

社会福祉法人博愛会の及川優理事長は、1979年から2018年3月まで及川放射線科内科医院（現：及川脳神経内科クリニック）の院長でしたが、同医院の患者さんには口内地区民が多く、理事長のもとには、口内地区にも福祉施設を建ててほしいという声が多く届いていたそうです。

そこで理事長は、2005年に口内町久田の伊東宗行さんの家跡地を、その後、昆野勲さん宅地を取得し、建設が決まるまでの間は、将来に備えて、「エスカール口内デイサービスセンター建設予定地」の看板を立てて、地区民に待ってもらっていました。

しかし、看板設置により地区民の期待がふくらみ、「いつ建てるの」と聞かれることが、逆に多くなったそうです。しかし、施設建設に向けて動き出すまでには、さらに時間がかかりました。



伊東宗行さんの家跡地。奥に見えるのは解体前の昆野勲さん宅

2012年（平成24年）5月、くちないデイサービスセンター、グループホームくちないの建設が決定、ようやく動き始めました。



2012年(H24年) 敷地造成工事始まる



8月 擁壁の基礎工事



8月 擁壁工事



9月 擁壁工事



11月 昆野勲さん宅の解体工事



12月11日 地鎮祭で玉串を奉奠する理事長

2013年(H25年)

デイサービスセンター浮牛の里、  
グループホームくちない 建設工事始まる



1月 雪の中での基礎工事



3月 屋根工事



4月 内装工事



5月 給排水工事



7月 外構工事



10月 完成

2013年(H25年)

## デイサービスセンター浮牛の里、 グループホームくちない開所



10/26 グループホーム内覧会



10/26 デイサービス内覧会



11月1日 デイサービスセンター浮牛の里開所



11/1 グループホーム入居第1号 和野内勇雄さん

- 11/25 グループホームくちない満床となる
- 12/1 居宅介護支援事業所浮牛の里オープン
- 12/12 口内保育園との交流会
- 12/25 グループホームクリスマス会

## 特別養護老人ホーム浮牛の里の建設工事始まる



12月 特別養護老人ホームの工事着工



12月 基礎工事

2014年(H26年)

特別養護老人ホーム浮牛の里の建設工事



1月8日



1月27日



2月13日



3月11日



3月24日



4月16日

2014年(H26年)

地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里いよいよ完成



5月13日



6月2日



6月25日



7月25日 消防検査



7/31 特別養護老人ホーム浮牛の里引渡式



## 2014年(H26年)



8/15 特養入居第1号 昆野ソメ子様、大泉俊様

- 4/23 グループホーム花見(展勝地)
- 5/24 口内町民運動会にデイサービスセンター・グループホーム職員参加
- 6/30 グループホーム薫風ドライブ
- 8/9、10 特養内覧会
- 8/12 特養浮牛の里開所
- 8/15 入居者受入開始
- 9/4 特養満床になる
- 9/15 特養・グループホーム  
合同敬老会
- 10/19 グループホーム黒岩産直  
ツアー
- 10/27 グループホーム紅葉ドラ  
イブ
- 11/1 グループホーム口内町民  
文化祭  
見学
- 11/3 第1回理事長杯争奪ユ  
ニット対抗輪投げ大会
- 11/14 口内小との交流会
- 12/9 口内保育園との交流会
- 12/20 特養クリスマス会



11/3 第1回理事長杯争奪ユニット対抗輪投げ大会(特養)

## 2015年(H27年)

- 1 / 12 特養入居者初詣
- 1 / 28 第一生命労組から特養  
に車イス1台寄贈される
- 2 / 6 口内保育園に鬼出張
- 2 / 26 グループホームくちない  
外部評価訪問調査
- 3 / 6 菱和建设による建物6  
ヵ月点検
- 5 / 23 グループホーム入居者、  
口内小運動会見学
- 5 / 27 チャレンジデーに参加
- 6 / 7 特養・グループホーム  
入居者口内町民運動会  
見学
- 8 / 10 浮牛の里花火大会
- 8 / 16 浮牛城まつり見物
- 9 / 1 炊き出し訓練
- 9 / 23 特養敬老会
- 9 / 26 グループホーム敬老会
- 9 / 28 グループホーム紅葉ド  
ライブ
- 10 / 15 グループホーム紅葉ド  
ライブ
- 10 / 16 特養チーム 岩手県高  
齢者協議会県南ブロッ  
ク輪投大会出場
- 10 / 17 グループホーム入居者、  
口内小学習発表会見学
- 11 / 1 グループホーム口内町  
民文化祭見学
- 11 / 18 口内小学校との交流会
- 12 / 20 特養クリスマス会



1 / 12 特養入居者 諏訪神社に初詣



6 / 7 職員も口内8区として運動会に特別参加



10 / 16 県南ブロック輪投大会

## 2016年(H28年)



1/20 デイサービスセンター新年会



8/27 第1回浮牛の里夏まつり

- 1/20 デイサービスセンター新年会
- 4/23 グループホームお花見会  
(詩歌の森公園)
- 5/21 口内小学校運動会見学
- 5/24 グループホームにウッドデッキ完成
- 7/18 グループホーム薫風ドライブ
- 8/5 隣地休耕田のボヤ騒ぎ
- 8/16 浮牛城まつり見学
- 8/27 第1回浮牛の里夏まつり
- 9/1 炊き出し訓練
- 9/17 特養・グループホーム合同敬老会
- 10/16 グループホーム黒岩祭り見物
- 10/29 グループホーム口内町文化祭見学
- 11/2 デイサービスセンター屋根の雪止め取付工事完了
- 11/9 口内小学校との交流会
- 11/29 第3回理事長杯争奪ユニット対抗輪投げ大会
- 12/14 口内保育園との交流会
- 12/18 特養クリスマス会
- 12/29 特養忘年会

## 2017年(H29年)

- 1 / 3 新春お茶会
- 1 / 16 特養タイヤ置き場天井の水道管破裂し大洪水
- 1 / 20 岩谷堂高校から手作りベンチとテーブル寄贈
- 1 / 24 グループホーム入居者諏訪神社へ初詣
- 2 / 3 口内保育園に鬼出張
- 4 / 6 居宅ミライース2号車納車
- 4 / 24 グループホームお花見会(詩歌の森)
- 4 / 26 グループホーム専用物置設置
- 5 / 28 デイサービスセンター・グループホーム、口内小運動会見学
- 5 / 30 コミュニケーションロボット「パルロ」採用
- 5 / 31 チャレンジデーに参加
- 7 / 2 デイサービスセンター・グループホーム、不来方高校合唱部発表会見学(口内小へ)
- 7 / 22 第2回浮牛の里夏まつり
- 8 / 16 浮牛城まつり見物
- 9 / 8 北上市内巡りツアー
- 9 / 18 特養・グループホーム合同敬老会
- 10 / 31 炊き出し訓練
- 11 / 7 グループホーム紅葉ドライブ(遠野・風の丘)
- 11 / 14 理事長杯争奪ユニット対抗輪投げ大会
- 12 / 16 特養クリスマス会
- 12 / 17 グループホームクリスマス会



1 / 20 岩谷堂高校からベンチとテーブル寄贈



5 / 30 パルロ採用



11 / 14 理事長杯争奪ユニット対抗輪投げ大会

## 2018年(H30年)

- 1/6 新春お茶会
- 1/31 グループホーム屋根からの落雪で雨樋破損
- 2/4 ジャンボ恵方巻き作り
- 2/6 グループホーム洗濯室スプリンクラーヘッド凍結し、水漏れ
- 2/23 グループホームスプリンクラーヘッド交換工事
- 3/5 寿司の日
- 3/23 特養春の大運動会
- 4/17 グループホーム、口内小2・3年生との交流会
- 4/23 グループホームお花見昼食ドライブ
- 5/16 口内小学校運動会見学
- 6/3 特養・グループホーム入居者口内町民運動会見学



4/17 グループホームと口内小2・3年生との交流会



12/15 特養クリスマス会

- 7/24 グループホームグルメツアー (マルカン)
- 7/26、27 岩谷堂高校インターンシップ受入
- 8/25 第3回浮牛の里夏祭り
- 9/17 特養・グループホーム合同敬老会
- 10/3 グループホームスプリンクラーメーター交換工事
- 10/9 グループホームいもの子会
- 11/16~22 タイヤ置き場天井の断熱工事実施
- 12/11 口内保育園との交流会
- 12/16 グループホームクリスマス会

## 2019年(H31・R元年)

1月 特養、グループホームで入居者・職員に  
インフルエンザ大流行！



4/23 グループホームお花見会

2/1 口内保育園に鬼出張

3/6 特養大運動会

4/23 グループホームお花見  
会（詩歌の森公園）

4/25、26  
特養お花見ドライブ

5/29 チャレンジデーに参加

6/5 コミュニケーションロボ  
ット「パルロ」退職

7/13 第5回浮牛の里夏まつり



8/13 口内1区盆踊り大会

8/13 口内1区盆踊り大会に参加

8/17 浮牛の里浮牛城まつり見学

9/16 特養・グループホーム合同敬老会

9/25 県南ブロック輪投げ大会出場  
特養の部 94チーム中6位

12/21 特養クリスマス会

12/22 グループホームクリスマス会



8/17 浮牛城まつり見学。殿様はラグビー元日本代表桜庭吉彦氏

## 2020年(R2年)

- 2 / 4 ジャンボ恵方巻き作り  
(20m20cm)
- 4 / 16 コロナウィルス感染拡大  
全国緊急事態発令
- 6 / 16 ドライブスリー方式お  
楽しみおやつ
- 6 / 20 26年間使用したハイエー  
スと、お別れ。(走行距  
離 296,465km)
- 7 / 15 第5回浮牛の里夏祭り
- 8 / 9 グループホーム夕涼み  
会
- 9 / 11 特養敬老会
- 9 / 15 グループホーム敬老会
- 10 / 24 口内きらめき鬼剣舞の  
慰問
- 12 / 20 デイサービス・クリス  
マス会
- 12 / 22 特養クリスマス会
- 12 / 24 グループホームクリス  
マス会
- 12 / 28 特養餅つき、忘年会



2 / 4 長さ20m20cmの恵方巻き作り



12 / 20 デイサービスのクリスマスなぞなぞクイズ大会

## 2021年(R3年)



9/3 デイサービスセンター敬老会



10/26 花いっぱいコンクール「優秀賞」



12/17 特養クリスマス会

2/20 特養排煙窓への網戸取付工事

3/2 特養寿司の日

4/1 辞令交付式

4/22 入居者・職員コロナワクチン予防注射1回目

5/1 宮城県沖地震(M6.8、北上市震度4)特養のエレベーター停止、グループホーム基礎部分に亀裂

5/13 入居者・職員コロナワクチン予防注射2回目

6/28 浮牛の里花壇に花苗定植

7/16~29

特養洗濯室・浴室用ガスボイラーの移設工事

7/20 第6回浮牛の里夏祭り

9/13 デイサービスセンター敬老会

9/15 特養敬老会

9/15 グループホーム敬老会

10/13 一般社団法人生命保険協会岩手県協会から車椅子1台寄贈

10/18 グループホーム紅葉ドライブ(江刺方面)

10/26 北上市花いっぱいコンクールの職場花壇の部で浮牛の里が「優秀賞」受賞

10/31 口内鬼剣舞の慰問

11/18 浮牛の里花壇にビオラ苗定植

11/18 デイサービス秋の大運動会

12/17 特養クリスマス会

12/17 グループホームクリスマス会

12/28 餅つき



## 2022年(R4年)



5/10 特養 母の日

- 1/20 入居者・職員コロナワクチン予防注射 3回目
- 2/3 節分、恵方巻き作り
- 3/3 特養ひな祭り
- 3/25 浮牛の里拠点避難訓練
- 4/1 辞令交付式
- 4/23 南ユニット花見
- 5/3 北ユニット新緑ドライブ
- 5/10 特養母の日
- 5/18 口内小運動会見学
- 7/21 入居者・職員コロナワクチン予防注射 4回目
- 8/5 第7回浮牛の里夏祭り

- 8/11 浮牛城まつり見学
- 9/1 炊き出し訓練
- 9/19 特養敬老会
- 9/19 グループホームくちない 敬老会
- 10/25 浮牛の里菜園のサツマイモ収穫
- 10/31 ハロウィン
- 11/17 入居者・職員コロナワクチン予防注射 5回目
- 11/17 グループホームくちない コロナ感染症クラスター発生
- 12/4 グループホームクラスター終息
- 12/16 クリスマス会



9/19 グループホームくちない敬老会

## 2023年(R5年)

- 4 / 3 辞令交付式
- 4 / 10 お花見ドライブ  
(デイサービスセンター、グループホーム、東ユニット)
- 4 / 15 お花見ドライブ (西ユニット)
  
- 6 / 4 口内地区民運動会見学
- 6 / 29 入居者・職員コロナワクチン予防注射 6 回目
  
- 7 / 3 玄関前花壇に花植え
- 7 / 22 浮牛の里拠点夏まつり
- 7 / 31 居宅介護支援事業所浮牛の里休止
  
- 8 / 31 岩手県知事・岩手県議会議員の期日前投票に行く
  
- 9 / 1 炊き出し・避難訓練
- 9 / 11 花いっぱいコンクール「優秀賞」受賞
- 9 / 15 敬老会 (4年ぶりに家族を招待して開催)
  
- 10 / 11 東桜小学習発表会リハーサル見学
- 10 / 16 県南ブロック輪投げ大会参加 8位
- 10 / 28・29  
口内町文化祭にデイサービスセンター浮牛の里とグループホームくちないから作品を出品



夏まつりで、お菓子釣りをする入居者



日本国旗とウクライナ国旗をイメージした花壇 (優秀賞受賞)

# 浮牛の里拠点の思い出

## 10周年に寄せて

特別養護老人ホーム浮牛の里運営推進委員  
昆野雅紀

地域に根差した「介護施設」として、入居者並びに御家族の皆様の「信頼と実績」を積み重ねられ、口内町を始め、近隣の集落や川東地区に無くてはならない施設に成長された「浮牛の里」



開所10周年を迎えられたこと、お慶び申し上げます。

また災害や不測の事態に備え、消防団や自治協の皆様にも、避難訓練等に参加して頂き、「地域ぐるみ」で安全を確保すると共に「緊急時の避難所」の機能も兼ね備えた施設として地域住民の安心、安全にも貢献して頂き、改めて御礼申し上げます。

私も開所以来、運営推進委員として、入居者の近況報告、施設の課題検討会後に「勉強会」にも参加させていただき、一昨年からは「身体拘束」について、学び、より理解を深めることで、今後の御施設の発展に寄与するよう、努力を重ねて行

きたく思います。

「浮牛の里」では入居者の「自由と尊厳を守る」事と「身体拘束による事故防止に依存しない」人に優しい介護に努め、日々並々ならぬ職責を担う、職員の皆様には改めて、感謝と敬意を表します。

「博愛会」が運営する各施設では、30年も前から、全国にさきがけ、岩手県内では初めてとなる、「身体拘束の撤廃、廃止」を実施、「介護の基準」を変えた功績は日々評価が高まり、今や全国の「介護の標準」と呼ばれるまでになりました。

昨今「寿命と健康寿命の時間差」が広がる中で、より「人間らしさを保つ介護」が益々、必要とされて居ります。

此処「浮牛の里」では認知症の抑制に効果があると言われる「会話の創出」を地域の人達との積極的な交流により育み、季節ごとの催事による「賑わい創出」では住民を交えた「地域密着型施設」の模範とも、なっております。

改めて、入居者、職員の皆様の健康を願い、今後の御施設の更なる発展をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 老人ホームができるらしい

特別養護老人ホーム浮牛の里運営推進委員  
菅野達也

浮牛の里拠点10周年、おめでとうございます。私は「地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里」が開所した当初より地域住民代表として運営推進委員をさせて頂いております。



開所当初を思い返せば、先ずは施設が作られていく様子が思い出されます。

以前この地に建っていた「久田のお医者さん」として親しまれていた伊東先生の旧宅の解体作業が始まり、叔母からなかなかの豪邸だったよと話を聞き、写真を撮りに駆けつけた事が思い出されます。当時は木に囲まれ鬱蒼とした屋敷で、コンクリート造りの診療所も残っていました。それらが数日の間に撤去されて更地に。すると巷では「何かできるらしい…」「老人ホームができるらしい…」と噂話が聞こえ始め、数年経っても、何も

できません…。

ですが、平成25年にやっと「デイサービスセンター浮牛の里」、「グループホームくちない」の2施設が開所、翌年「特別養護老人ホーム浮牛の里」が開所しました。

四方を山に囲まれたこの田舎町に、これだけ大規模な施設が作られることは滅多にありません。しかし、全国平均に負けないほどの高齢化が進むこの地域には必要でした。

2カ月に1度開かれる運営推進委員会議では、毎回職員の方から日頃の園内の様子や利用者のアクシデントなど、些細な事柄についても報告を受けたり、ディスカッションをしたりしています。それらの話を聞く度に職員の方々の職務に対する頑張りや細やかな気配りに有難さを感じます。

また、所用で事務所に伺った時など、明るい笑い声が聞こえてくると、職員のコミュニケーションの良さを感じます。

地域と積極的に交流を重ねている「浮牛の里」が、これからも正に地域密着型として末永く親しまれ、頼られ続けられる事を願います。

## 両親の見送り

グループホームくちない運営推進委員  
大泉智恵子

父母は高齢となり、父の生活介助の為ヘルパーさんが家に来るようになり、やがてエスカルデイサービスセンターを2人で利用するようになっていました。

私の定年退職を待っていたかのように、両親の介護生活は始まりました。

退職した4月初め、母は食事が摂れなくなり、大腸がんと診断され入院。病院での3ヶ月の看取り療養で亡くなりました。

父は、母の発症前から少しずつ認知症が始まり、



智恵子さんとお父さん

## 浮牛の里は口内の誇り

グループホームくちない運営推進委員  
辻市 茂

浮牛の里拠点10周年にお祝い申し上げます。

縁が有り、平成26年から地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里運営推進委員として、また、平成31年からは、グループホームくちない運営推進委員として携わらせていただき、気が付けば10年程の関わりとなりました。

この間、特養ホームでは、5年ほど前から母がお世話になりました。自分の家族の介護でも難しいと感じる中、職員の皆様には親身に向き合っていていただき、常に入居者の安全を考えていただきとても感謝しております。

夏祭りでの出店、流しそうめん等、また、クリスマス・誕生会での歌や踊りのイベント等には家族も参加させていただき、施設にいながら子供や

失禁などがありました。ヘルパーさんに入っていたいていましたが、盲ろう者としての障害もありましたので、ヘルパー派遣、デイサービス、ショートステイなど多機能を備えた「さくらまちケアホーム」の利用が適しているのではないかとケアマネさんからの助言もあり、母亡き後、利用させていただきました。

そんな中、私は自覚がありませんでしたが、精神的に追いつめられていたのでしょう。父の度々の発熱にどう対処したら良いかわからず、こぼれる涙を止めることができません。

その姿を見た、さくらまちケアホームの福地所長さんから「大丈夫、私たちが引き受けるから」と言われ、連続ショートステイ、そして特養浮牛の里開所に合わせての入所と繋がっていったのです。

福祉に関わる沢山の人たちの協力があって、その後2年余の浮牛の里生活の後、父は旅立ちました。

2人の介護をする中で「老いるとは」「死とは」を深く学習した私は、自身の仕舞い方について考えることが多くなりました。その先に浮牛の里拠点があることに、勇気と力をもらっています。

立ち上げてくださった理事長さんに感謝です。理念を引き継いでくださっている職員の皆様に感謝です。

孫たちも母との思い出を作ることができました。

このような素晴らしい施設が「口内」にできたことを、とてもうれしく誇りに思います。これからも浮牛の里がより一層発展し活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



右から母・千穂子さん、茂さん、長男・拓哉さん

## もう一つのマイホーム

元入居者家族  
千葉理恵

10年前、我が家は老いていく祖母と共に、揺れ動く日々になんげつ翳りが増していました。

そんな時、浮牛の里の開所を知り、祖母の入居を申請。“合格”までのドキドキ感が、今では懐かしい日の出来事となりました。

あの時、認知症を患ってるとはいえ気丈だった祖母の心のひだには、どんな思いがあったのだろうか？私の心に、安堵感と共にやりきれない思いが渦巻く中、平成26年8月15日、祖母の浮牛の里での生活が始まりました。

すべてが真新しい浮牛の里で、明るくはつらつと走り回る職員の方々に目を見はり、祖母はと見れば家族の思いとは裏腹に硬い表情。

でも、日を追うごとに表情が緩くなり、それをチャンスと、職員様の計らいで大好きな梅の花咲く頃に実家帰りとなり、その時のクシャクシャの祖母の顔。空を仰ぎ見て「ああ、幸福だ」とつぶやいた



## 思 い 出

元入居者家族  
齋藤純二

今、「浮牛の里」さんと両親のことを思い出しています。その節は、大変お世話になりました。

入居前の両親は、自宅で2人暮らしをしていましたが高齢となり生活に不安を感じ、父源吉90歳、母せつ89歳の時に、2人でケアハウスエスカールにお世話になりました。

その後しばらくして、母は徘徊等が始まり「グループホームくちない」さん(後に特養浮牛の里に入所)に、父は「特別養護老人ホーム浮牛の里」さんへ移り、通算約7年間お世話になりました。この施設の連携は、私にとって安心の出来るものでした。

施設に入所してからの両親の生活はとても穏やかで、明るい生活となりました。行事イベントが沢山



祖母の声。ありがたい、ありがたい時間でした。

また敬老会では、百歳の方に記念品。「私も欲しい」とねだっては、職員様と記念品もらえる百歳まで頑張ろうと大笑い!!

ホームでは一年中、何やかやと一人一人に合った生活をと奮闘されています。いつの間にか私たちも祖母に会うのが楽しみになっているのにもびっくり。そうなんですね。浮牛の里は、もう一つのマイホームになっていたんですね。

祖母はいつも「ありがとう」と迎えてくれました。人生という旅の終わりを、浮牛の里で完結できたことは幸福でした。おだやかに銀河へと向かうことができましたもの。

その間、私たちは他の入居者の皆様とも心を通わせ、丸く仲間になり、図々しくもお茶会を催したり、皆で歌おうと巻き込んで歌い、め、いっぱい遊ばせていただきました。どんな時にも応援して伴走して下さった当時のすべての職員の方々の笑顔。いつ迄も記憶に残るでしょう。何もかもありがとうございました。

介護を取り巻く諸問題の中、これからも心温まる暖まる暖まるとした空間で、地域のホームとして語りかけて下さいませ。

あり、小旅行、誕生会、初詣、レストランでのお食事会、輪投げ、ボーリング大会、釣り堀大会等々、結構楽しんでいたようです。私と妻も、敬老会、夏祭り、クリスマス会等に招待され、両親と共に過ごしたことがよい思い出となっています。

残された浮牛の里での数々の写真を見るたびに、昨日の事のように思い出すことが出来ます。また職員の皆様さんには、面会時、フレンドリーに接していただき、とても親近感を感じたものです。コロナ禍での無理な面会(ガラス越し)は、大変ご迷惑をおかけしました。

親を施設に入所させるに至ってはいろいろな思いがありましたが、今は入所できて良かったなという思いでいっぱいです。

退所の際にも肉親のように最後まで温かく介護、看護して下さった介護員さん看護師さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

いまだに街で博愛会の車、職員さんの姿を見かけることがあり、懐かしく思います。本当にありがとうございました。

## 百歳の祝いを浮牛の里で

元入居者家族  
菅野豊志

大正6年2月生まれの母・クラ子が、満100歳の祝いを、町民待望の老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里で迎えることができた。

平成29年2月8日、紅白の幕で飾られた会場に入ると、毎週面会に来ていた私ども夫婦と姉の3人の前に現れた。パッと目開き、背筋を伸ばして椅子に座っている母の姿が。驚いた。

「これから長生きしてください」と高橋敏彦北上市長から記念品、親戚の方、施設の方からも記念品や花束を贈られ、母はひとりひとりに失礼す



前列左から二人目が豊志さん。中央がクラ子さん

ることなくお礼を申し上げていた。職員の方々の何気なく諭し教えてくださった結果だと、心より感謝申し上げる。

母は19歳で結婚し、13人の子供に恵まれ、日々幸せな暮らしをしていたが、昭和18年、夫が招集され、昭和20年2月に戦死の知らせを受けた。以来、農業に生計を求め、働きづめの人生であった。

趣味として編み物や手踊りが好きで、農閑期には、毛糸やハンパ布で人形や置物を作り、部屋に明るく飾っていた。また、旅行も好きで、北海道から九州まで、楽しんで旅をしていた。

そんな矢先、平成17年6月、股関節を骨折して済生会病院で手術。老人保健施設たいわに入所中に縁あって、特養浮牛の里にオープンと同時に入所した。

浮牛の里には昔からの知り合いもあり、食事から身の回りまでお世話して下さるスタッフに囲まれ、和やかに日々を送らせて頂いた。

平成30年6月、にこやかな笑みを浮かべ、皆さんに見守られて天に旅立った。

母さん、皆さんありがとう。

## 10年前のあの日あの時

元入居者家族  
菅野ヒフミ

あれから10年、もう10年なんですね。新しく立派なホームが完成。待っていましたがとにかく、母を入居させていただきました。

今思えば、口数の少なくなってきた母は、職員さん達との会話が、きっと楽しかったのではないかなあ…と思っています。施設生活に慣れてきた頃には、ドンパン節を唄ったりして愉快地暮らしていたと聞いています。

家では唄などあまり聞いたことがなく、女手一つで子育てをした苦労人の母。父は、私が生まれてすぐに戦争に。待っても待っても父は帰ってこなかったそうです。祖父母もいたので、母も私も家を離れることはできませんでした。

母は、和裁も洋裁も編み物も、ひとりで何でもできる人でした。私も母に習っていればよかった

など、今思えば残念です。

でも、隣町から来てくれた私の旦那さんが、頑張ってくれたから今があるのだと感謝しています。そのうちに、私たち夫婦もお世話になる時が来るものと思っています。

いつまでも、いつまでも平和でありますように。そして特養浮牛の里の発展を願っています。



菅野トシ子様（左）とヒフミ様

## 誇りに感じる父の姿

元入居者家族  
鈴木 満 幸

浮牛の里拠点開所10周年に際し、謹んでお祝いを申し上げます。

私の父は、早くから認知症を患い、数年前にグループホームくちないを利用し始め、その後、特養浮牛の里に移り生活しておりましたが、今年5月に天寿を全うし、天国に旅立ちました。

グループホームでお世話になっていたときには、敬老会やクリスマス会などに私も参加させていただき、父と一緒に楽しいひとときを過ごしたことを覚えております。

父は早くから会話も成り立たない状態でしたが、職員の皆様が手を握り、肩や背中を撫でて根気よく話しかけると、父はうれしそうな顔をしていました。

特養ホームに移ってからも、職員の皆様からの温かい声かけや接し方は変わりませんでした。特養ホームにグループホームの職員の方が寄った際に、父に声をかけていただいている様子を見かけ、父が大切にされていることを感じ、こちらにお世話になって本当に良かったと思いました。

父は認知症により、早くに会話や身の回りのことができなくなりましたが、長生きし、ありのままの老いる姿を見せてくれたことに、息子として誇りに思います。私のような思いを持つことができたのも、父の散歩に付き添い、健康を維持してくださった浮牛の里拠点の職員皆様のおかげであり、本当に感謝しております。

最後になりますが、浮牛の里拠点職員の皆様のご健康とご多幸を祈念するとともに、浮牛の里拠点のさらなるご発展とご健勝をお祈り申し上げ、末筆といたします。



H30.05.16 グループホーム面会時

## グループホームの思い出

元入居者家族  
辺見 洋子

平成29年1月に、私の母はグループホームくちないに入居しました。施設にはじめて入ったときは「落ち着いた雰囲気でも安心して過ごせる」と思いました。

入居してからは職員の方が様々な活動に誘って

くださり、母の笑っている姿が増えたことにとっても感謝しています。そして、家では手を掛けられなかったところを、職員の方が丁寧に支援してくれたこと、今でも感謝しています。

敬老会では、職員手作りの豪華なお膳を母も私も頂きました。そのどれもが美味しくて「母はこんな素敵な所にお世話になれて、幸せ者だなあ」と感じました。

母が亡くなる直前、肝心な時に傍にいてあげられないこと、家族のことも忘れてきてショックだったことを今思い出しています。それでも、職員の方が優しく母に接してくれたこと、亡くなったときには一番きれいな状態でお見送りをしてくれたときには、感動してなんて幸せな最期なのだろうと思いました。グループホームくちないには長い間お世話になりました。今、写真を見ながら思い出を振り返っています。このような施設がもっと増えればいいなあと心から思っています。



R元.09.17 敬老会での親子写真



## 地域の介護施設として

元デイサービス利用者家族  
内海 清

開所10周年おめでとうございます。

現在、施設が立っている場所は、旧伊東医院跡地で、町民に生きる力を与えてくれる場所でもあります。

施設開所当時、バス停やゴミ集積所の件で、及川優理事長には地域貢献をいただきありがとうございました。

また、「浮牛の里」の名称は、伊達藩の名残と後に栄えた福岡村の歴愛があり、抵抗なく親しみやすいと感じています。

人生50年と言われた時代から医療が進み長寿社会となり、自宅介護ができず施設入所は、今は当たり前なのですが、日常を何不自由なく、個室もあり、好みに合わせて楽しく暮らせる、この施設は家族にとっ



て基準に合った対応とはいえ十分すぎる内容です。

当初、グループホームくちないの運営推進委員会に地域代表として出席した際、入居者の方々が職員と一緒にデザートを作り、振る舞ってもらったことが何度かあり、おいしくいただきました。皆さんが和やかに楽しそうに調理しているのを拝見し、微笑ましかったです。

私が口内鬼剣舞保存会長をしていたとき、鹿俣園長から、浮牛の里夏祭りに公演依頼があり、きらめき鬼剣舞の出演が実現しました。以来、毎年（コロナ禍を除き）披露の場をいただいております。鬼剣舞の子ども達も参加を大変心待ちにしているようです。

コロナ禍の中、普段とは異なる対応にご苦労があったと思います。面会もできない中でも職員の皆さんの元気で献身的な介護のお力添えで、入居者は老後を楽しく送ることができていたようです。本当に感謝、感謝に尽きます。

この10年の地域に根ざした実績を踏まえ、今後20年、30年と、地域と歩む介護施設として発展していくことを望みます。

## 両親一緒にデイサービス利用

元デイサービス利用者家族  
鈴木恵美子

浮牛の里開所10周年、心よりお慶び申し上げます。

我が家では、両親が、浮牛の里開所とほぼ同時にデイサービスセンターを利用し、3年前父が他界、その後母が、地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里へ入所し現在に至っています。

デイサービス利用前は、認知症初期の両親と兄との3人暮らしでした。母は食事の準備、庭の草取り、父と兄はテレビ鑑賞、時々散歩の生活でした。

デイサービス利用当初、両親一緒にの利用だったこともあり、違和感なく楽しく通所していました。ところが家事をする母が、少しずつ認知症が進み、施設利用日を忘れてたり、送迎時間に間に合わず再送迎だったり、随分、施設にご迷惑をかけていたのだということを私は後になって知りました。その後、週1日から、次第に通所日が増えるに当たり「おら行かなくてもいいのでは、。家の仕事も忙しくなるもの」と言い始め、「デイのみんなが待ってるよ。ゲームとかドライブ、塗り絵、色々楽しかったでしょ」と私が言うと、「んだな」と言って、また気を取り戻して行く気になりました。

コロナ前は、デイを利用することで、家庭ではできない皆さんとの会話、ゲーム、工作、ドライ



ブ等様々な施設での創意工夫で楽しかったことも、連絡帳や時々会う両親との談話で私は知りました。

その後、特養に入所し、母は今年3年目になります。今は、私のことも忘れ、面会に行くとき「誰ですか？」と言われますが、会話をしているうちに、娘かなと思っている部分も見られます。最近、リビング内で「あんで〜！」と、大きな声を出すことが多くなったと知りました。慣れてきたにしろ、なんと失礼な呼び方と思い、面会時に「母さん、職員さんに用事があるときは、すみませんとかハイ！と手を上げた方がよいよ」と言うと、傍らにいた職員さんが「すみません！で呼ばれるのは、キワ子さんに呼ばれている気がしない。今までどおりの、あんで〜！で呼んで欲しい」と言われ、博愛会のモットーであるひとりひとりの個性や生活リズムを尊重、。云々の一つなのかなと思い、真摯に受け止め、今もそのままにしています。今では、面会に行っても私が何を言ったのか通訳して頂いているかのように職員さんを見て安堵する母の姿に私は感銘を受けました。

身体に爆弾を抱えている母ですが、家に居たら施設のように、ここまでできるかと自問自答しても、私はノーの一言です。職員さんや利用者さんと過ごしている母は、私から見たら幸せ者だと思います。今後も皆さんと楽しい日々を送らせて頂きたいと思っております。

園長先生をはじめ職員の皆様、今後もどうぞよろしく願いいたします。

最後になりましたが、今後の博愛会浮牛の里のご発展をお祈り申し上げます。

## 浮牛の里拠点の思い出

デイサービスセンター浮牛の里  
グループホームくちない

元所長 八重樫牧雄

月日の流れは速いもので、浮牛の里拠点も今年で10周年を迎えるのですね。今思うと、私にはあっという間の10年間だったように思います。



私は、開設当初からの3年間と、令和2年から定年退職までの3年間、デイサービスセンター浮牛の里とグループホームくちないの所長として勤務させていただきました。

開設当時は、デイサービスセンターもグループホームも、手探り状態の勤務でした。

グループホーム職員は、私を含めて全員がグループホームの経験がなかったので、何から始めたらいいか手探り状態でした。入居者は元気な方が多く、目を離すと施設の外に出ていかれたり、ゴミ箱に排尿されたりしました。職員みんなで対応策を話し合っ、やってみてダメだったなら、違う方法を考えるという試行錯誤の連続でした。でも、今になって考えると、充実した毎日だったな

と思います。本当に貴重な体験をさせていただきました。

デイサービスセンター浮牛の里とグループホームくちないがオープンした当時は、特別養護老人ホーム浮牛の里の建設中でした。私たち職員の駐車場は、施設から少し離れた場所にあり、冬は除雪をしなければならず、毎朝、職員が出勤する前にスノーダンプで除雪しました。グループホーム屋根からの落雪がエアコン室外機を埋めてしまい、1日ばかりでスコップで雪掘りしたことも、懐かしい思い出です。

グループホーム入居者との思い出は数々あります。外に出たいという入居者と2人で散歩に出たのですが、調子よく歩いていた入居者が力尽きて歩けなくなり、車で迎えに来てもらったこと。職員の手作り弁当を持ってお花見に出かけ喜ばれたことなど懐かしいです。

私は令和5年4月で定年を迎えましたが、ここまで勤めてこられたのは、入居者、職員の皆さんに支えていただいたおかげです。ありがとうございました。

最後に、博愛会の益々の発展をお祈りいたします。

## デイ浮牛の里で働いて

デイサービスセンター浮牛の里  
元生活相談員 鈴木 生成

浮牛の里、開設 10周年おめでとうございます。

私が博愛会を離れてからおよそ5年の月日が流れ、職員の皆様の顔ぶれも変わっているかと思えます。



私がデイサービスセンター浮牛の里に勤務していたのはわずか1年だけでしたが、とても内容の濃い1年間でした。

当初私は相談員という職種にあまり良いイメージがなく、異動してきた頃はあまり乗り気ではありませんでした。しかし、デイ浮牛の里で出会った先輩方から様々な技術や知識を教えていただく中で、相談員という職種のすばらしさを再度認識

させていただきました。

今は別の会社で、培った技術を用いながら相談員を続けることができているのは、ひとえにその先輩方のおかげです。

また、口内の利用者様たちは皆人柄が良く、仕事そのものが楽しく感じられていました。

1年という期間の中で、濃密な思い出をたくさん作ることができました。

浮牛の里では、私のみならず妻もお世話になり、妻ともども感謝しております。今後とも皆様のますますのご繁栄を願ひまして、結びとさせていただきます。

## 初めてのユニットケア

介護課 南ユニット  
主任介護員 藤川 有子

平成から、令和の変わり目、私は浮牛の里へ異動してきました。

博愛会でのスタートは八天の里が開所した平成6年4月。専門学校を卒業し社会のことを何ひとつ知らず、介護の仕事をスタートしました。

八天の里を皮切りに、エスカール、博愛ヘルパーステーション、さくらまちケアホーム、色々な場所で介護の経験を積んできました。

浮牛の里建設中は訪問介護をしていました。訪問先で口内の利用者様のお宅に訪問すると、「あそこに施設ができるって、優先生のところでやるんでしょ、できたら行ってみなくちゃ、将来私達も使うと思うから、、、」など地域の方の期待も大きかった事を覚えています。

それから何年か経ち、浮牛の里で働く事になりま



した。私は今までユニットケアには携わったことがなくユニットケアって、どんな感じなのか、入居者はどんな感じなのか、どんな生活スタイルなのか全く想像できず、色々なことが頭の中をグルグルしながら浮牛の里へ異動してきたことを思い出します。

実際働き始めると、今までとは勤務体制、職員数、入居者の余暇時間の過ごし方などが全く違い、すべて初めてのことだらけ。入居者が職員に合わせるのではなく、入居者に職員が合わせ介護を提供するスタイルは、とても良いことだと思いました。

浮牛の里へ異動し、6年目になります。博愛会では30年。家族より長くお世話になってきました。働きながらいつも感じていることは、入居者に毎日楽しく過ごしてもらいたいということ。

今までたくさんの施設で、色々なことを行い、家族様や地域の方に支えられ介護という仕事をしてきました。まだまだ日々の生活のなか、勉強中ではありますが、たくさんの人生の先輩に色々教えてもらいながら、これからも働いていければと思っています。

常に博愛会のモットー「心温まるケアを目指して」、、、、

## ケアマネから介護員に

介護課 西ユニット  
主任介護員 佐藤多佳子

浮牛の里がオープンした年、私は、エスカール在宅介護支援センターでケアマネージャーとして勤務していました。

当時、私の母は闘病生活中。家族の立場になった私は、医師や看護師の優しさが心に染みしました。母の死をきっかけに、再び現場に戻り介護をしたいな〜と強く思うようになっていたころ、浮牛の里介護員への異動打診がありました。

子ども達は2歳と3歳。まだまだ手のかかる頃で、施設勤務となれば、変則勤務で夜勤もあります。大変なのは目に見えて分かってはいましたが、家族に迷惑と負担をかけながら、2年目の浮牛の里・南ユニットの介護員として勤務が始まりました。

異動してきた年、9人の入居者がいる南ユニットに配属されました。何か楽しいことをしよう！



と思いつきのレクリエーション企画が多かったような気がします。

ある年、桜が満開で、天気も良好。相談員と看護師を巻き込んで展勝地にお花見に出かけました。おにぎりや玉子焼き、から揚げなどのお弁当を作り、満開の桜の木の下でピクニックをしました。今でも忘れられない行事の一つです。

ユニットケアの良いところは、少人数だからこそ、入居者様、ご家族との馴染みの関係ができやすいことだと思っています。今でも、退所されたご家族の方から、「元気？」と声をかけて頂けることは、私にとって、とてもありがたい事です。

楽しい事ばかりでなく、沢山勉強する機会も頂きました。そのお蔭で、現在は、西ユニットのリーダーを任されています。まだまだ未熟で、コロナ禍では、ユニット職員に沢山助けられ、協力しながら乗り越えてきました。

浮牛の里に来てよかったな〜と入居者、ご家族の方々に思ってもらえる介護を心掛け、博愛会のモットーである“心温まるケア”を目指して日々走り続けています。

## すいとん作り

介護課 東ユニット  
主任介護員 菊池 亜衣

私が特別養護老人ホーム八天の里で働いていた5年目の時に、当時の上司から「ユニットケアリーダーの研修に行ってみませんか？」と声が掛かりました。



博愛会で新たな事業を始める計画があるということで、その時はユニットケアという内容もよく理解していなかったのですが、どのような施設なのか、しっかり学んで吸収したい気持ちで研修を受けに行きました。

私が研修に向かった施設は新潟県十日町市にある特別養護老人ホームで、そこでは毎月、曜日を決めて、喫茶店や居酒屋等があり、事務室前には駄菓子屋が常時開店していました。自分の好きなように起きて生活をするというようなケアの取り組みに感銘を受け、このようなケアを私達も取り組むのかなと想像しただけでも、とてもワクワクしたことを思い出します。

そして、いよいよ口内地区に地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里が開設しました。私は西通りユニットのユニットリーダーとして配属され、研修で学んできたことを活かしながら、ユニットメンバーと「ここにソファを置こう。」「こういうのも必要だね。」と話し合いながら、準備をしました。

私は唯一3ユニットのリーダーを務めてきましたが、どのユニットでも1番に印象に残っているのは、入居者様と一緒に料理をしたことです。特に西通りユニットに在籍していた時、すいとん作りが得意な入居者様がいらっしゃって、割烹着を着て手際よくすいとん粉をこねて作って下さった姿は自宅でもこのように作っていたのだらうなと思ひ起こされ、八天の里で働いていた時は、その様な経験がなかったので、ユニット施設ならではの出来事だと思います。

今回、10周年を迎え、本当にあっという間でしたが、ここには書ききれない程のエピソードを経験し、自分の人生の糧にもなっています。これからも入居者様と日々の楽しみを大切にしながら仕事に励んでいきたいと思っています。

## オープン初日の1人夜勤

介護課 北ユニット  
主任介護員 照井 雅代

平成25年、ケアマネージャーとしてエスカル在宅介護支援センターで勤務していた私は、鹿俣園長に面会室に呼び出され、人事異動の話がされた。「口内に新設される特別養護老人ホーム開設準備室に異動してほしい。開所後は介護員として働いてもらう」と話があった。



準備室？私は何をさせられるの？介護員ですって？介護の現場は7年間離れているし、夜勤もすることになるの？…と不安でいっぱいだったのを覚えている。

開設準備がスタートすると、建設中の浮牛の里へ行ったり、入居申し込みをされた方々の元に面接に行ったり、日々手探り状態。あっという間にオープンの日を迎えた。

初日は短期入所の方1名のみ。夜勤は私。1対1の介護だった。ちょっとした物音でもユニット内に響き渡り、ドッキドキ。家に残してきた当時、小学校1年生だった息子のことも気がかりで、落ち着かない夜だった。ものすごく夜が長く感じた。

あれから10年。思い出せば色々なことがあった。冬場の夜勤。出勤すると2階北ユニット、バルコニーの下、大雨のように水がザーザー。水道管の破裂。非常ベルが鳴り響き、貯水槽から水をくみ対応に追われた夜。

夜中に震度4の地震があり、ナースコール対応に追われた夜勤。なぜかそんな時に勤務しているのが私…。

今後も色々なことがあるだろう。介護の仕事は大変なことが多い。利用者の笑顔、「ありがとう」の一言を楽しみに、思いがけない出来事を笑いに変えながら、今後も地域の方々が必要とされる施設であり続けられるよう、日々、努力していきたい。

## 人生の大先輩

生活相談課

主任 介護支援専門員 浅沼陽子

私は、デイサービスセンター浮牛の里に異動になった頃、第三子妊娠中でした。介護が難しい状況だったので、利用者の皆さんとゆっくりと話す時間がたくさんありました。



私は、口内に来てから新しく覚えた方言がたくさんあります。「げえねえ。」(面白い)、「たまな」(キャベツ)、「めじょろ」(姪)、「親方」(父)等です。

また、私もなまりは強い方だと自負していましたが、人生の大先輩には到底及びませんでした。「えっ?今何て?」と私が利用者に聞き直すとその私の反応を楽しんでいるかのように笑顔で教えて下さいました。段々と方言や独特のなまりを交えながら会話することが楽しくなり、利用者の方で方言を使いこなしていく自分がいました。

## あっという間の10年

看護課

主任看護師 加藤見衣子

浮牛の里拠点が開所して10年、あっという間でした。私は平成25年はグループホームくちない、平成26年からは特養浮牛の里に勤務しています。



特養開所後、地元の浮牛城祭りの大名行列で腰元役として参加したことは、とても良い思い出です。

私は医療現場に長くおり、福祉は全くの未経験でした。迷いや困難な事が多かったのですが、鹿俣園長から「ここは生活の場で病院ではないから、家族と同じだよ」と言われ、入居者への接し方も変わりました。

囑託医の深雪先生には24時間連絡を取れる体制を取って頂いており、適切に指示を出してもらっております。利用者の体調変化や急変時は家族への看護師の説明では不十分なので深雪先生にお願

いします。利用者の送迎にも携わることで口内の1区から9区まで、ほぼ知らない道はないくらいになりました。あぐり夢くちないで買い物をすれば、利用者やその家族といった顔なじみの近隣住民の皆さんに必ず一人にはお会いし、お話しに華が咲くというまでにもなりました。

今年の4月までは特別養護老人ホーム浮牛の里の生活相談員として、施設の行事を盛り上げることに一生懸命になっていました。コロナ禍で慰問を呼べない数年間は、クリスマス会や敬老会で、相談係トリオでダンスを踊ったり芸を披露したりと余興に力を入れてきました。

5月から相談課の顔ぶれが一新され、現在は、ケアマネージャーをしています。今は、今度はどんなことをしようかと楽しみでいっぱいです。

面会や行事がコロナ禍前のように当たり前に行なわれること、家族の皆さんと入居者様がノーマスクで時間制限なく笑い合う姿を見るのが待ち遠しいです。

いします。医師の言葉は家族にとって大きな意味を持ちます。些細なことでもすぐに相談でき、安心して働くことができております。

施設のほとんどの高齢者は自宅に帰りたい希望をお持ちです。悲しみや不安をもち、老いを悲観されている方もいます。医療では「傾聴と共感」を学びました。おひとりおひとりに寄り添って安堵したり、共感することを心がけています。

そして最近3年間はコロナで困難な時でした。及川佳寿美園長の指揮のもと立花朝日香さん筆頭に対策に追われ疲弊しそうになりました。ゾーニング、個室対応、抗原検査など利用者さんにとっては非常に窮屈で大変なことをしていました。必要な対策で更には家族面会も制限され、申し訳ない気持ちになりました。今後も対策は続きますがスタッフ皆さんの協力のもと、利用者の健康を維持し守っていきますよう微力ながらがんばっていきたいと思います。

これからも宜しくお願い致します。

## 10年分の笑顔ありがとう

庶務課  
清掃員 柳 澄子

自分の身体の故障から、転職を考えていた私が、浮牛の里清掃員募集の話聞いたのは、八天の里に入所していた母に面会しに行ったときでした。



清掃の仕事は30代の頃に一度経験がありました。当時は「もっと年配になってからの仕事」と思って長くは続きませんでした。

ところが、清掃員募集を知ったときの私は、“年配”と言われる年齢になっていて、自分の身体の調子に合っているかなと思い、面接を受けさせてもらいました。

浮牛の里開所と同時に清掃業務を任せられましたが、初めの頃は、周りを見る余裕がありませんでした。でも、入居者さんの方がよく見てくださっていて「いつもありがとう」「腰、痛くならないか」

と温かい言葉をかけてくださいました。おかげで仕事のやりがいを感じるようになりました。

そうすると、こちらからも「お変わりないですか」「ちゃんと眠れましたか」と、声がけするようになり、入居者の元気な笑顔を見たくてユニットを回るのが楽しみになりました。

行事でごちそうが出る時、ドライブに行く時、夏まつりや敬老会で家族が来る時、輪投げ大会や餅つきなど、その時その時の入居者さんのキラキラ笑顔を見るのが、とても大好きになりました。

コロナ禍を経て今年7月、3年ぶりの浮牛の里夏まつりが開催され、私もボランティアとして入居者さんと一緒に屋台やゲームコーナーを回りました。入居者さんの、はじける笑顔を見て、私も楽しくなりました。

私の母は八天の里、父は浮牛の里でお世話になったからこそ言えるのですが、入居者さんが笑顔でいられるのは介護員さんをはじめとする職員達の努力のおかげです。浮牛の里に入ってよかった、入れてよかったと言われるよう、私も頑張ります。

## 宿直代行員として

庶務課  
宿直代行員 太田 文雄

私は、八天の里に3年、浮牛の里に約7年、宿直代行員としてお世話になっています。



平成26年7月、北上市シルバー人材センターに入会して2年目の私に、シルバー事務局から、口内地区に開設される老人ホームで宿直代行員として働いてみないかと勧められ、私は引き受けることにしました。

開所4日前の8月8日、シルバー人材センター事務所高橋さんの運転で浮牛の里に挨拶に伺いました。

庶務課の千田主任から、宿直代行員業務の内容や施設の説明を受け、施設内を案内して頂きました。完成したばかりの浮牛の里は、本当に素晴らしく感動したのを覚えています。

そして平成26年8月12日の開所日を迎えました。私は宿直代行員としての経験はなく、鹿俣園長、

千田主任からのご指導を頂き、宿直経験者の先輩会員からも業務について色々教えて頂きながらの試行錯誤のスタートになりました。

業務がスムーズにできるように、初対面の介護員、看護師の皆さんの顔と名前を1日でも早く覚えようと努力したことや、施設を巡回して、各入り口の施錠確認し、床についても緊張で仮眠できず苦勞したことが思い出されます。

入居者が容態急変になり、医師である及川理事長が急遽来所されたとき、宿直員の私に「ご苦勞様」と、優しく声をかけて頂いたことも忘れることができません。

令和2年から新型コロナウイルス感染症が拡大し、浮牛の里拠点でも感染予防対策に取り組みながら、介護員、看護師の皆さんが入居者の方々の介護・看護をするという事態が続きました。幸い、令和5年頃からコロナ感染は徐々に治まりだし、終息したわけではありませんが、平常に戻りつつあります。

コロナ禍のなか、浮牛の里拠点は10周年を迎え、宿直業務に携わってきた身として心からうれしく思っております。これからも、浮牛の里拠点がさらなる発展を続けることを祈念しております。

## 待たされ続けた思い出

グループホームくちない  
介護員 小田島登志子

私は、グループホームくちないに勤務し、10年。一番の古株になりました。

オープンの1年以上前、当時、エスカール園長だった鹿俣さんから電話があり「今度、口内に新しく建てるグループホームの介護員として働かないか？これから建てる施設なので、オープンまで待ってられるっか」とのこと。当時、農協のパートヘルパーをしていた私にとっては願ってもないことだったので、すぐに「働きたいです。待ってます」と即答しました。

八天の里での介護経験はあるものの、グループホームってどんなところ？夜勤はできるのかな？不安を抱えながら待つ日が始まりました。

ところが、いくら待っても鹿俣さんからの呼びはかかりません。建設予定地には小さな看板があるだけで、工事が始まる気配はありません。『私って、本当にメンバーに入っているのかな？間違いないのかな？』と、不安が募るばかりでした。仕事も手につかず、知り合いに、どうなっているのか聞いてみたりしていました。

そんなとき、ようやく鹿俣さんから電話があり



「着工が遅れているけど、介護員のメンバーには入っているから」とのこと。一安心したことを思い出します。

予定地に出向き、建設工事が始まった様子を目にしたときは『あ～やっと始まった。良かった』と胸をなでおろし、期待に胸を膨らませました。

平成25年11月1日、グループホームくちない開所式を迎え、不安でやきもきしていた頃を思い出していました。

開所式では、入居第1号の和野内さんが理事長の前に出て「どうぞよろしくお願ひします」と頭を下げているのを見て、胸がとても熱くなりました。『これからは、入居者に、グループホームを、居心地の良い自分の家だと思ってもらえるよう、少しでも寄り添って行きたい』と、心に刻んだ日でもありました。

あの日から10年。亡くなった方、特別養護老人ホームに移った方などがいて、9人の入居者のうち開所当時からの方は2人だけになりました。私も大きな手術をするなど色々ありましたが、「ありがとう」と言ってくれる入居者の言葉を励みに頑張っています。

開所10年を迎え、初心を思い返し、入居者のために、グループホームの“お母ちゃん”として、笑顔あふれる居心地の良い場所作りを続けていきます。

## あれから10年

グループホームくちない  
介護員 及川由記子

私は、平成23年4月から、博愛ヘルパーステーションに勤務させていただき、平成25年11月オープンのグループホームくちないに異動してきました。

あれから10年。長いようで、今思えばあっという間に時は過ぎてしまいました。

グループホームでは夜勤もあり、職員1人で9人の入居者を見守り、介助ができるのか、当時はすごく不安でしたが、鹿俣園長や八重樫所長、そ



してスタッフの方々がいろいろアドバイスをしてくださり、今まで働かせてもらっています。

入居者とは畑の野菜と一緒に採りに行き、キッチンで食材を切って料理したり、秋には柿の皮をむいて干し柿にしたり、冬はウッドデッキの雪かきを一緒にしたり、雪だるまを作って楽しんだりしてきました。

時には、「家に帰りたい」と外へ出る入居者と一緒に外を歩いたり、入浴拒否する入居者様と、「私も一緒に入るから入りましょう」と一緒に入浴したことも思い出です。

これからも、入居者一人ひとりが自分らしく生活できる場であるように、サポートしていけたらいいと思っています。

## 10年間を振り返って思う事

デイサービスセンター  
准看護師 佐々木博子

「教えてもらえればできる  
と思います。」と、16年前の  
採用面接で言ってしまった私。  
怖いもの知らずなのか？楽天  
的な性格なのか？エスカール  
デイサービスセンターで6年  
間勤務することができました。



平成25年11月1日に口内町にデイサービスとグ  
ループホームが開所。翌年には特養ホームが開所  
する為に、メンバー達が発足しそれぞれの施設に  
分かれて勤務となり、私は10年間デイサービス浮  
牛の里で働いています。一番の古株になってしま  
い、膝も痛いはずですね。(泣く)

特養ホームが開所するまでの10ヶ月間デイサ  
ビスセンターでは、お泊りも受け入れました。看  
護師としてホーム勤務なしの私は、一週間も連泊  
する利用者様の薬の管理に気配りしました。夜勤  
の介護員への夕、就寝前、朝の投薬への指示や確

認です。名前のミスがないようにさらに気をつけ  
ました。お泊りの利用者様の朝食介助も初めての  
体験でした。

来園される利用者様を誘導しながら食事介助を  
交互に行い、血圧などの測定もしなくてははいけま  
せんから、今では考えられないほど忙しい日々だっ  
たと記憶しています。

職員が助け合い、できる事は進んでやる事をモッ  
トに全員が心がけていたと感じていました。

去年コロナ感染によりデイサービスも休業を余  
儀無くされ、職員の検査や利用者様の検査に自宅  
まで伺いました。皆様が優しく声をかけてくださ  
り、心から嬉しかったです。

グループホームへも7日間手伝いに行きましたが、  
デイサービスでは知りえない難かしさも体験  
できました。職員が入居者様の個性をしっかり熟  
知して対応されていました。

10年間を振り返って思う事は多々ありますが、  
楽しかった思い出の方が大きいです。これまでの  
介護施設の経験が、もっと役立てるように日々努  
力したいと思います。

## 私の思い出

デイサービスセンター  
介護員 菊池一枝

私は平成28年に、八天の  
里デイサービスセンターか  
らデイサービスセンター浮  
牛の里に異動してきました。

7年前の浮牛の里はでき  
たばかりの新しい建物で、  
ここで働ける喜びと、頑張  
らなくてはという思いがありました。

初めてのデイホールに入ると、壁には立体感の  
ある素晴らしい桜の木、梁にはきれいな花びらの  
つるし飾りが室内を彩っていました。これらの素  
晴らしい飾りを、職員と利用者で作ったと聞かさ  
れ、レベルの高さに私もやっていけるのかと不安  
になりました。

当時、デイ浮牛の里ではレクリエーションがと  
ても活発で、特にゲームは思考をこらした新しい  
ものを週替わりでやっていました。私も担当した  
ので、毎日ゲームを考えていました。夜、布団の



中で考えすぎて眠れなかったこともありました。

ゲームだけではなく、年間行事もたくさんあり、  
お花見、夏祭り、敬老会、クリスマス会、買い物ド  
ライブ、思い出ドライブ、初詣ドライブなどで、利  
用者に楽しんで、気分転換していただく内容です。

私が思い出に残っているのは、展勝地でのお花  
見。その日は風が強く、やっと座ったシートがめ  
くり上がったり、帽子が飛んだりし、早々と車に  
戻りました。

紅葉ドライブでは、トイレ休憩によった土産物  
屋で、お金は持っていかないという約束だったの  
に、たばこを買って吸っている利用者を発見。私  
はびっくりしたのと、見守りができていなかった  
自分を反省しました。

敬老会では、職員の踊りの輪に、踊り好きな利  
用者が飛び入りし、大いに盛り上がり、楽しかつ  
たという声も多く、この仕事にやりがいを感じま  
した。

これからも地域に根ざし、信頼されるデイサ  
ビスセンター浮牛の里を目指して頑張っていきま  
す。



## 日焼けと虫が大嫌い

居宅介護支援事業所  
所長（主任ケアマネ） 奥友昌子

平成25年11月、エスカー  
ル在宅介護支援センターに  
勤務していた私は、新しく  
開設する『居宅介護支援事  
業所浮牛の里』への異動が  
決まりました。その当時は  
まだ特養浮牛の里は建設中  
で、グループホームくちないの事務コーナーの一  
角を間借りして、松館ケアマネジャーと2人体制  
でのスタートでした。



窓のすぐ外にはグループホームの畑があり、エ  
スカールの園長命令で、時々野菜の手入れをし  
たりしました。日焼けと虫が大嫌いな私はちょっ  
と苦痛でした。

グループホームの、毎日の日課や誕生会など  
の行事を、間借りしている一角からいつも眺め  
て「グループホームってこういう所なんだな」「み  
んなイキイキしているな」と思っていました。

平成26年8月、特養浮牛の里のオープンと同時  
に居宅介護事業所浮牛の里の事務所を特養浮牛  
の里の事務所に引っ越ししました。特養の園長や  
事務員と机を並べて、毎日楽しく仕事が出来  
ました。特養の行事にも時々参加させてもら  
いました。地

元のお祭り『浮牛城まつり』も何度か特養の  
入居者と一緒に見に行きました。夏の暑い日  
で、日焼けや虫が大嫌いなのに、なぜかと  
とても楽しかったです。

仕事では辛い事や悲しい思いをすることが  
ありましたが、浮牛の里に出勤する事に苦  
痛はありませんでした。

一緒に仕事をしてきた松館ケアマネジャー  
が産休に入った時も、1年間1人体制で  
したが、特養のスタッフや他の拠点の  
ケアマネジャーの皆さんが協力体制を  
取ってくれたので、無事に乗りき  
ることができ、松館ケアマネジャーは、  
元気な赤ちゃんを出産し戻って来て  
くれました。

思い起こせばこの10年間、公私ともに  
色々なことがあり、長いようであっ  
という間だった気がします。居宅  
介護支援事業所浮牛の里で勤務  
でき、沢山の利用者様や職員と  
出会い、沢山の勉強させて頂  
き、沢山の楽しい思い出をさ  
せてもらいました。プライベート  
でも嬉しい出来事があり充実  
した10年間でした。

令和5年6月末、「居宅介護支援事業所  
浮牛の里を7月31日付けで休  
止する」と上司から急に告  
げられ、大きなショックを受  
けました。

浮牛の里で過ごした約10年間の  
思い出を胸に、これからの新  
しい出会いに期待したいと思  
います。

## 浮牛の里とともに過ごした10年

居宅介護支援事業所  
ケアマネージャー 松館悦子

平成25年にグループホーム  
くちない、デイサービス  
センター浮牛の里、居宅  
介護支援事業所浮牛の里が  
開所し、翌年地域密着型  
特別養護老人ホーム浮牛  
の里が開所となり今年で  
10年になります。



私事になってしまいますが、私は平成25年  
から社会福祉法人博愛会でお世話にな  
っておりますので、浮牛の里と同期  
になります。

居宅介護支援事業所の介護支援専門員  
として仕事するのが初めてで、分  
からないことばかりでし

た。サービス調整だけでなく、担  
当している方やご家族様との信  
頼関係の築き方、関係事業所  
の多職種との連携方法など多  
岐にわたり学ぶことが多く、  
未熟者だったこともあり、時  
には目を背けたくなることも  
ありました。

ですが、園長はじめ、素晴らしい  
上司、先輩方に恵まれ、助言  
頂き、励まされ、支えられて  
ここまで成長することができ  
ました。

また、浮牛の里在籍中に子供  
にも恵まれました。人の温か  
さを身に染みて感じ、職場  
の皆様、家族に大変感謝して  
おります。

浮牛の里で学んだことを糧に、  
在宅生活を送られる方、ご  
家族様に寄り添い、支えら  
れる温かい介護支援専門員  
になれるように努めたいと  
思います。

# 浮牛の里拠点 職員紹介

## 特別養護老人ホーム浮牛の里歴代園長紹介

初代園長  
鹿俣 達也

H26.8.1～R3.3.31  
(6年8ヶ月)



《資格》

○社会福祉士 ○介護支援専門員

《経歴》

- S55.4.1～H6.3.31 一関市の社会福祉法人仁愛会で身体障害者施設の生活指導員、生活指導課長として勤務。
- H6.4.1 社会福祉法人博愛会採用。特別養護老人ホーム八天の里で主任生活相談員としてスタート。
- H12.4.1～H15.6.30 特養八天の里施設福祉課長兼庶務課長
- H15.7.1～H17.3.31 特養八天の里副園長
- H17.4.1～H21.3.31 特養八天の里園長
- H21.4.1～H26.7.31 ケアハウスエスカール園長
- H26.8.1～R3.3.31 特養浮牛の里園長

二代園長  
及川 佳寿美

R3.4.1～R5.3.31  
(2年)



《資格》

○社会福祉士 ○介護福祉士 ○介護支援専門員

《経歴》

- H6.4.1 社会福祉法人博愛会採用。特別養護老人ホーム八天の里で介護員としてスタート。
- H13.4.1～H14.3.31 八天の里デイサービスセンター介護員兼生活相談員
- H14.4.1～H15.7.15 特養八天の里施設福祉課副主任 生活相談員
- H15.7.16～H18.3.31 エスカール在宅介護支援センター副主任 介護支援専門員
- H18.4.1～H23.3.31 特養八天の里施設福祉課主任介護支援専門員
- H23.4.1～H24.3.31 特養八天の里施設福祉課総括主任 介護員
- H24.4.1～H26.3.31 特養八天の里施設福祉課長 介護支援専門員
- H26.4.1～H26.7.31 新設特養準備室課長 介護支援専門員
- H26.8.1～H29.3.31 特養浮牛の里施設福祉課長 介護支援専門員
- H29.4.1～R2.3.31 グループホームくちない・デイサービスセンター浮牛の里所長（管理者） 介護支援専門員
- R2.4.1～R3.3.31 特養浮牛の里副園長 介護支援専門員
- R3.4.1～R5.3.31 特養浮牛の里園長

三代園長

鹿俣 達也

R5.4.1～現在

《経歴》

- R3.4.1～R5.3.31 3拠点（八天の里、エスカール、浮牛の里）統括所長
- R5.4.1～ 特養浮牛の里園長兼3拠点統括所長

## デイサービスセンター浮牛の里歴代所長紹介

歴 代	所 長 名	期 間	備 考
初代所長	八重樫 牧 雄	H25.11.1～H29.3.31	管理者兼介護員
二代所長	及 川 佳寿美	H29.4.1～R2.3.31	管理者兼介護員
三代所長	八重樫 牧 雄	R2.4.1～R5.4.30	管理者兼介護員
四代所長	立 花 朝日香	R5.5.1～現在	管理者兼介護員

## グループホームくちない歴代所長紹介

歴 代	所 長 名	期 間	備 考
初代所長	八重樫 牧 雄	H25.11.1～H29.3.31	管理者兼介護員
二代所長	及 川 佳寿美	H29.4.1～R2.3.31	管理者兼介護員
三代所長	八重樫 牧 雄	R2.4.1～R5.4.30	管理者兼介護員
四代所長	立 花 朝日香	R5.5.1～現在	管理者兼介護員

## 居宅介護支援事業所浮牛の里歴代所長紹介

歴 代	所 長 名	期 間	備 考
初代所長	奥 友 昌 子	H25.11.1～H26.7.31	管理者兼介護支援専門員
二代所長	鹿 俣 達 也	H26.8.1～R2.3.31	管 理 者
三代所長	奥 友 昌 子	R2.4.1～R5.7.31	管理者兼主任介護支援専門員



八重樫牧雄



立花朝日香



奥友昌子

## 庶務課



私の行きたいところベスト3  
1 八幡平のドラゴンアイ  
2 京都、奈良  
3 韓国  
必ず実現するぞ！

主任(事務員) 千田ひとみ



片道1時間の通勤時間中の  
ラジオが私の癒やしです。

事務員 高橋早苗

推しがいるから  
頑張れる！



清掃員 柳 澄子

私のリフレッシュ方法  
は、休日に90分間ウォー  
キングをすること。



営繕員 初貝卓夫

浮牛の里ができて、口内の一角が  
明るくなりました。我が家から外  
を見たとき、「明かりがあるって、  
いいなあ」と思います。



清掃員 菅原史恵

これからは高齢者も働かな  
ければなりませんので、身  
体に気をつけて頑張ってい  
きたいと思っています。



宿直代行員 菊池三平

宿直員としてお世話にな  
って10年目になります。  
これからも、よろ  
しくお願いします。



宿直代行員 太田文雄

健康で元気に頑張っ  
ていきたいと思って  
います。



宿直代行員 佐藤栄一

## 生活相談課

あぐり夢の『焼き肉定食』がオススメ。ご飯おかわり無料！



課長（生活相談員） 田 鎖 健

皆さんに喜んでもらえるおいしい食事を考えます。



主任（ケアマネ） 浅 沼 陽 子

ミスチル大好きです。どなたか知り合いいませんか？



管理栄養士 小山田祥子

## 看護課



主任看護師 加藤見衣子

ガーデニングが趣味。今はパンジー、葉ボタンを種から育てています。



産直大好きです。季節の野菜や果物を見ていると、癒やされますな。



看護師 南幅はるひ

もう少し、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。



看護師 内海ケサ子

リンゴ農家5年目。リンゴの花に癒やされます。私は、主に「食する」ことを担当しています。



看護師 昆野節子

## 介護課 南ユニット



パグ飼い15年。  
パグ大好き！



マラソンが大好き  
です。程々に頑張っ  
てます。



釜石出身のイケオジ  
(いけないおじさん)  
です。



犬カフェと推し活に  
癒やされてます。



愚痴を言いながら早く  
も15年。  
楽しく働いています。

主任 藤川 有子    小関 明美    石井 義博    小原 あゆみ    菊池 栄子

## 介護課 西ユニット



日々の疲れを癒やし  
てくれる必須アイテ  
ム。ビールと柴犬あ  
ずき！



車いじりとドラ  
イブにはまっ  
ています。息子の  
笑顔に毎日癒や  
されています。



高橋 花



アニメ、マンガ、UFO  
キャッチャーが好き。  
のんびり、マイペース  
で生きてます。



伊藤 貴寿



趣味は、缶ビー  
ル片手の読書  
と、チクチク  
ちまちま針仕  
事です。



安部 実調



後藤 裕

主任 佐藤 多佳子

お菓子大好き男子。  
絵を描くこと、唄う  
ことが趣味です。

## 介護課 南ユニット



中年太り進行中！

何事も元気  
いっぱい  
頑張ります。

ゲームやジグ  
ソーパズルが  
大好きです。

小原由希

主任 菊池亜衣

佐藤大介

映画を見るのが  
大好きです。

健康に気を  
つけて働か  
ます。



柳原美琴

村上亜津美

## 介護課 北ユニット



時間に追われる  
日々...

猫動画に癒や  
されています。

主任

藤枝 久美子

照井 雅代

菊池 悠里

子育て真っ最中！  
毎日ドタバタして  
ます。

口内の自然が  
大好きです。

北ユニットは  
明る元気！  
菅原 智子

柏葉 大地

明日の活力は、  
ビールと魚釣り！



## デイサービスセンター 浮牛の里



生活相談員 及川 麻希

お菓子が大好きで食べない日はありません。特に『味しらべ』は飽きずに食べています。

料理を作るのが大好きな私。家族には、中華料理が大好評です。



介護員 佐藤 春美



趣味は野球観戦。特に大谷が出場する試合は、深夜だろうが早朝だろうが、全部観戦して応援しています。

『笑点』を観るのが毎週の楽しみ。疲れが吹っ飛びます。

旅行が大好き。ヨーロッパ、特にドイツに行ってみたいなあ。



運転手 昆野 柱康



介護員 菊池 一枝



准看護師 佐々木 博子

# グループホーム くちない

まだ行ったことのない  
ところに旅行したいなあ。  
そして、ご当地のおい  
しいものを食べたいで  
す。



所長 立花朝日香

孫の笑顔に癒やされ、  
日々頑張っているバ  
バです。



計画作成担当者 八重樫圭太

3歳の娘のほっぺを  
モチモチするのが、  
最近の癒やしです。



介護員 小田島登志子



介護員 栗生裕行

7人の孫がいて、賑や  
かな日々です。来春に  
は、もう1人増える予  
定です。

え、とんでもない。  
私は山に行きますよ。



介護員 及川由記子



管理栄養士 阿部未涼

家でも職場でも毎日遊ば  
れている感が、、、  
1人になって景色を楽し  
むのが今の癒やしです。

カフェ巡りが好き。特  
に抹茶スイーツには目  
がありません！



介護員 藤巻奈穂



介護員 佐藤由美子

大好きなバンドのライブ  
に久しぶりに行ってきま  
した。最高すぎてニヤニ  
ヤがとまりません。

ワインを飲みながらマン  
ガやアニメを見て、つい  
つい夜更かししてしま  
います。



介護員 菊池恵子

## 居宅介護支援事業所 浮牛の里



右が奥友昌子所長、左が松館悦子ケアマネージャー

2013（H25）年  
12月1日

グループホームくちないの事務室の一角を借りて居宅介護支援事業所浮牛の里がオープンする。  
エスカール在宅介護支援センターから“分家”した形となり、利用者は9割以上が口内地区民だった。

2014（H26）年  
8月12日

地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里オープンに伴い、浮牛の里 事務室に引っ越す。  
年末年始の6日間以外は毎日営業し、しだいに口内に隣接する奥州市江刺梁川や広瀬地区の利用者も増えてきた。

2019（R元）年

口内地区の高齢化が進む中で、65歳以上の老年人口は減少に転じてきた。

2023（R5）年  
7月31日  
8月1日

### 居宅介護支援事業所浮牛の里休業

利用者の減少に加え、エスカール、八天の里のケアマネージャー不足もあり、休業。

奥友所長はエスカール在宅介護支援センターに、松館ケアマネージャーは八天の里在宅介護支援センターに異動した。

## 編集後記

浮牛の里拠点10周年記念誌編集委員会  
編集委員長 千田ひとみ

無事に記念誌の発行ができ、皆様に感謝申し上げます。

このたびの記念誌は、令和4年6月に第1回実行委員会を行い、その後も何回かの委員会を開催して資料や写真集め、原稿依頼などの分担を決め、1年半かけて編集を進めてまいりました。

最初、編集委員長という大役を任されたときは、本当に発行できるのか不安で不安でたまりませんでした。編集委員みなでアイデアを出し合い、原稿集めも順調に進み、発行予定日に間に合わせることができました。

約1年半、編集に携わってきて、10年間のいろいろな出来事を振り返ることができました。浮牛の里拠点の歴史について、いろいろと知ることができたのは有益でした。また、寄稿文を読み、ありがたい言葉に涙しました。多くの皆様に記念誌を読んで頂きたいと思えます。

今年、居宅介護支援事業所浮牛の里が休業となってしまったことは非常に残念ですが、今後の10年、20年も、口内地区の福祉の拠点として皆様と共に歩み続けて行きます。

お忙しい中、原稿をお寄せいただいた方々に心からお礼申し上げます。

令和5年12月15日

### 編集委員名

- 鹿 俣 達 也（地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里園長）
- 田 鎖 健（地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里副園長）
- 奥 友 昌 子（居宅介護支援事業所浮牛の里所長）
- 立 花 朝日香（グループホームくちない、デイサービスセンター浮牛の里所長）
- 浅 沼 陽 子（地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里生活相談課主任）
- 八重樫 圭 太（グループホームくちないリーダー）

### 浮牛の里拠点10周年記念誌 地域とともにあゆむ

発行日 令和5年12月15日  
発行者 社会福祉法人博愛会  
地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里  
岩手県北上市口内町久田25番地11  
T E L 0197-71-4560  
印刷所 有限会社 北上プリント  
岩手県北上市大曲2番13号  
T E L 0197-64-7082